

夏季吟道大学時間割

7月15日(土)	
時間	項目／講師
12:00	JR三河安城駅 新幹線北口集合
12:35~12:55	注意事項伝達、事務局通達及び世話役紹介
13:00~13:30	〈開講式〉
13:30~13:50	一、吟剣詩舞道憲章の精神と財団の組織改革／沼崎富会長
13:50~14:20	二、審査規定の解説とコンクール審査の実態／徳田寿風副会長
14:20~14:35	三、公益財団の組織運営と指導者の役割／池内賢二専務理事
14:35~15:10	〈休憩〉【チェックイン】
15:15~16:45	四、漢詩観賞／漢詩家 鷺野正明先生
17:00~17:45	〈夕食〉
18:00~19:30	五、声の衛生／医師 角田晃一先生
19:40~20:40	六、班別座談会
20:45~21:45	〈点呼、とり舟体操の稽古、閉講式リハーサル〉
22:00	〈帰室・就寝〉
7月16日(日)	
時間	項目／講師
6:00	〈起床〉
6:20~6:50	〈点呼、とり舟体操〉
7:00~8:00	七、意見交換会 一吟詠の普及振興をめぐってー
8:00~8:50	〈朝食〉
9:00~9:10	【チェックアウト】班別に手荷物整理後、会議場集合
9:15~9:25	〈休憩〉
9:25~10:55	八、吟詠研修／徳田寿風副会長
11:00~11:50	九、吟詠講習／池田嶺煌先生
11:50~12:30	〈昼食〉
12:30~14:20	十、研修吟詠
14:20~14:30	〈記念撮影〉
14:30~14:50	〈閉講式〉
14:50~15:00	事務局通達



受講生代表として、沼崎学長に「誓いのことば」を述べる黒石龍光1班班長

7月20日(土) 漢詩や声についての 貴重な講義も

昭和44年に山梨県本栖湖の全国モーターボート競走会連合会本栖研修所で第1回が開催されて以来、湘南国際村センター、成田東武ホテルエポルトと場所を移してきた夏季吟道大学。コロナ禍により3年間中断、令和4年度から公益社団法人日本モーターボート選手会が運営・管理する愛知県碧南市の勤労青少年水上スポーツセンターで開催となりました。

〈開講式〉

今回は日本全国から39名が参加。開講式に先立ち、浅田聖謙、石川春海、大山宗鵬各少壮吟士と地元の鳥居翔鵬さんの4人を世話人として紹

日本財団助成事業

日時：令和6年7月20日(土)～21日(日)
場所：愛知県碧南市勤労青少年水上スポーツセンター
主催：公益財団法人日本吟剣詩舞振興会

令和6年度 夏季吟道大学開催

コロナ禍以降の二昨年より、規模を縮小して愛知県の勤労青少年水上スポーツセンターにて開催されている「夏季吟道大学」。日本全国から吟詠の指導者が集い、さらに深く吟詠について学ぶとともに、同じ道を歩む吟友と交流を深めるという貴重な研修の場。今年も39人の受講生が一堂に会し、さまざまな講義や吟詠研修に浸る貴重な2日間を過ごしました。

介。その世話役の「受講生起立！礼！直れ！着席！」というかけ声とともに式や講義が開催されます。

まず早淵鯉将副会長が「一つでも多くのことを学び、地元に戻ってから同じ道を歩む方々と共有していただければと願います」と「開講のことば」。国家斉唱と財団会詩合吟に続き、沼崎富会長が「新たな多くの発見ができることへの喜びとともに、初心を見つめ直すいい機会であると考えております」と挨拶。続いて黒石龍光1班班長が受講生誓いのことば。さらに石堂光聖子2班班長の先導によ

り、『桂林荘雜詠諸生に示す その一』の記念合吟を行いました。

〈二時限目～五時限目〉

13時半から一時限目開始。三時限目まで例年と同じ項目で約1時間にわたり開催。チェックインに続き、四時限目は鷺野正明先生による「漢詩鑑賞」。十干十二支の説明後、^{じっしやう}入声など中国語の発音を解説。四季の詩の紹介へつなげました。

夕食後の五時限目は国立病院機構東京医療センター耳鼻咽喉科・音声言語学科の角田晃一先生が「声の衛生」について講義。喉の役割から誤

嚥の予防、音声の生成などを豊富なパネルを使って解説。詩吟が健康長寿に役立つことを力説しました。

〈班別座談会〉

19時40分から「吟剣詩舞の将来のあるべき姿、目指す方向」をテーマに班別座談会。各班に世話役も参加し、熱心に意見を交換。その内容は班長・副班長がまとめて翌日の「意見交換会」で発表(●ページ参照)。その後翌朝のために点呼・とり舟体操の練習を行い、22時に1日目のカリキュラムを終了、ようやく就寝となりました。



閉講式の前に記念撮影する受講生と役員、世話人の方々。受講生はエントリーした41人のうち2人が欠席して39人が参加。4班に分かれて班別座談会などで意見を交換、連絡先を取り合うなど交流を深めた

講師と講義の内容

(二時限目は審査規定の解説とコンクール審査の実態、六時限目は班別座談会、七時限目は意見交換会、十時限目は研修吟詠)



〈一時限目〉沼崎 富会長

吟剣詩舞道憲章の精神と財団の組織改革
昭和44年10月に設立された日本吟剣詩舞道振興会の規範である吟剣詩舞道憲章を解説



〈一時限目〉池内賢二専務理事

公益財団の組織運営と指導者の役割
水上スポーツセンターの説明に始まり、公益財団の定義などを専務理事の立場から説明



〈一時限目〉鷺野正明先生(漢詩家)

漢詩観賞
「季節を感じて」と題し、暦の説明から四季の詩として杜牧『清明』、白居易『夜雪』などを解説



〈一時限目〉角田晃一先生(医師)

声の衛生
喉の説明から誤嚥の予防、声帯萎縮改善対策実践的な内容をパネルを用いて詳細に解説



〈一時限目〉徳田寿風副会長

吟詠研修
「美しく明瞭な発声発音について」では、口と舌のストレッチやバマタカラ体操など実技を指導



〈一時限目〉池田嶺煌先生

吟詠講義
徳川景山『大楠公』を元にして読みや母音などを解説。後半は研修吟詠と歩き方等も指導した



たくさんのパネルを用いて「声の衛生」について講義する国立病院機構東京医療センターの角田晃一先生

令和5年度夏季吟道大学受講者一覧 ◎=班長、○=副班長

1班	地区	氏名	指導歴	性別	流派派及び役職名
	東日本	杉田 國陽	3年	女	日本國風流詩吟吟舞会 國仁会 指導部長
	東日本	石井 錦文	3年	女	錦水流錦洲会 総師範
	東日本	根岸 玉桜	5年	女	玉峰流玉峰吟詠会 副会長
	中部	鳥居 美鵬○	3年	女	朝翠流朝道吟詠会 副理事長
	近畿	黒石 龍光◎	12年	男	岳精流日本吟院大阪岳精会 副会長
	近畿	山内 水峰	12年	男	詩道楠水吟詠会 師範
	中国	森 尊英	5年	女	吟道哲尊流 若葉支部 理事
	四国	山本 紫煌	5年	女	吟道紫虹吟社 婦人部長
	九州	伊藤光興子	7年	女	淡窓伝光靈流日本詩道会 統師範
	九州	松田 岳秀	11年	女	(公社)日本詩吟学院認可 岳陽会 事務局長

2班	地区	氏名	指導歴	性別	流派派及び役職名
	東日本	横山 龍精○	10年	女	岳精流日本吟院 宗嗣
	東日本	栗本 溪将	5年	男	詩吟溪月流 江北吟詠会 青年部長
	中部	飯干 光峰	4年	女	不朽流吟詠会 研修副部長
	中部	杉村 淳夢心	11年	女	吟詠澆心流芽生会 副会長
	中部	梶谷 里鳳	5年	女	紫洲流日本明吟会福井本部 講師
	近畿	山田 龍滄	8年	女	岳精流日本吟院大阪岳精会 広報編集部 部長
	近畿	西野 水由	13年	女	詩道楠水吟詠会 常任理事
	中国	横田 山堂	5年	男	関西吟詩文化協会 哲滄会殿山支部長
	四国	片山 辰風	3年	男	臥風流吟詠会 普及部 常任理事
	九州	石堂光聖子◎	15年	女	淡窓伝光靈流佐伯詩道会 副会長

3班	地区	氏名	指導歴	性別	流派派及び役職名
	東日本	荒崎 紫有○	7年	女	紫虹流吟詠詩舞道会 高席師範
	東日本	澤田 心輝	4年	女	岳心流関東地区本部理事及び執行部役員
	中部	秋山 瑠峰	3年	女	吟詠澆心流芽生会 常任理事
	中部	徳川 芳穩◎	5年	女	吟道関心流福井県本部 範師
	近畿	山田 龍兼	10年	男	岳精流日本吟院大阪岳精会 事業部・広報編集部 副部長
	近畿	荒木 碧泉	5年	女	(一社)哲泉流日本吟詠協会 滋賀県支部連合 担当講師
	中国	野崎 勵山	5年	男	水真流聖山吟詠会琉光支部
	四国	吉田 恵峰	6年	女	渭山流吟剣詩舞道至道会 青年副部長
	九州	鍛冶尾 凌峰	8年	男	秀峰堂吟剣詩舞会 助講

4班	地区	氏名	指導歴	性別	流派派及び役職名
	東日本	荒崎 紫春○	6年	女	紫虹流吟 詠詩舞道会 高席師範
	東日本	森川 緑洲◎	7年	男	吟道錦洲流緑洲会 会長
	中部	平野 江岳	6年	女	(公社)日本詩吟学院認可 鶴峰岳風会 常任理事
	中部	片桐 由風	3年	女	(公社)日本詩吟学院認可 北陸岳水会 理事
	中部	大辻 正季	3年	女	関西吟詩文化協会 正洲会 理事
	近畿	山野 水嬌	15年	女	詩道楠水吟詠会 常任理事
	中国	片山 粹鵬	7年	女	朝翠流師鵬吟詠会 講師
	四国	二神 麟風	4年	男	清吟堂吟友会 地区本部長 新居浜ブロック会長
	四国	山地 麗莉	5年	女	清吟堂吟友会 香川地区事務局長
	九州	山口 梅蕉	10年	男	詩吟道日本吟声流 師範

受講者の
 半分の20人が
 「研修吟詠」に挑戦



池田嶺煌先生は「跳ね上げるように詠う」として、身振り手振りを交えて受講生を指導

これを楽しみにしてやってきたという人も多い「吟詠研修」。全国吟詠コンクール課題吟の中から任意の吟題を選び、一人ずつ前に立って吟詠。沼崎会長や徳田副会長が講評を述べます。九時限目の池田嶺煌先生も研修を実施。指名されたり挙手したりした3人が池田先生の批評を受けるとともに、十時限目の研修も参加しました。

今回は「少壮吟士準候補」として8月に同じ場所で開催される研修会に参加する荒崎紫有・荒崎紫春姉妹と横山龍精さんの3人も参加。そのうち両方の研修を受けた横山さんは「十時限目の研修も予定通り『従軍行』で受けられるというので、九時限目はジャンルの違う『佳實好主』を希望しました。「緊張しい」なので先生方や皆様の前で吟ずることに慣れないと思って挙手しましたが、やはりあの場所に立つといろんなものが飛んでしまいます(笑)。思いがけない指摘もあって勉強になりました」とのこと。

また十時限目だけ参加した荒崎紫有さんは「強い吟が多いので綺麗な吟『佳實好主』を選んでみました。ご指摘のあった表現の仕方など非常に納得いたしました。来月の「少壮吟士準候補研修会」はまた別の吟題で頑張ります」と感想を述べました。



2日目の朝に行われる吟道大学名物の「とり舟体操」。石川春海世話役の指導のもと、前夜の練習は各班副班長が、本番は班長が音頭をとった

7月21日(日)

最後は2時間近い研修吟詠

〈意見交換会〉

前夜の班別座談会での議論の内容を、各班の班長・副班長が発表。内容は下の囲み内を参照。

〈八時限目〉

徳田寿風副会長による吟詠研修。まず「美しく明瞭な発声発音について」として、声は心身の状態を表す、明瞭な発音で印象が変わる、母音がポイントなどと講義。次に「ワンランク上の吟詠をめざして」として、吟詠の本質は語りの素晴らしさ、アクセントにも音程がある、あいまいな母音が生み出す豊かな情感など、実践的な吟詠向上の研修を行いました。

〈九時限目〉

聖吟士会の池田嶺煌会長による吟詠講義。『大楠公』を例にとつて読み、母音、音程、発声、詩心について

講義。後半は受講生の中から希望者を募って研修吟詠を実施しました(左ページ写真参照)。

〈十時限目〉

受講生の希望者20人に対して行う吟詠講習。他の受講生への批評も勉強になる、吟道大学のメイン課題です。講評は沼崎会長、徳田副会長が行いましたが、「のぼすところ下がるクセがあるので注意すること」、「母音の響きが悪く、本数が高すぎる感じ」など具体的な指導が行われました。やり直した結果修正されたゲースも多く、実のある内容となりました(左ページコラム参照)。

〈閉講式〉

全員で記念撮影をして閉講式。沼崎会長が「さらなる吟詠力の向上とともに、貴会員へのご指導にあたっていただきますよう期待します」と学長挨拶。修了証書の授与後、森川緑洲4班班長が感謝のことば。徳田副会長が「ここで得られた体験を地元に戻って還元していただきますようお願いします」と閉講のことばを述べ、猛暑の中で開催された2日間の幕を閉じました。

誓いを新たに:班長の声



第1班班長:黒石龍光さん

「私どもの副会長に勧められ、井の中の蛙にならぬようにと思い参加しました。雰囲気はすぐよくて勉強になりましたが、開会式での誓いのことばは緊張しました(笑)。帰ってからもできるだけ情宣活動をしたいです」



第2班班長:石堂光聖子さん

「徳田先生などにご指導いただくことはないのでぜひ参加したい。1日目夜に受講証をいただく練習しただけで泣きそうになりました(笑)。鷲野先生の講義は漢詩の背景を知ったらもっと詩吟を楽しめると痛感しました」



第3班班長:徳川芳穩さん

「流派でも会員が減っているの、皆さんのような方策をとっているのか学び、皆にも伝えたいと思って来ました。角田先生の講義は私も喉には苦労してきたので、こういうトレーニングもあるのだと勉強になりました」



第4班班長:森川緑洲さん

「吟歴は長いですが勉強らしい勉強をしてこなかったの、もう一度挑戦してみようと思って参加しました。さまざま講義も聞きましてあらためて吟詠は深いなと思い知らされたので、生涯の友としようと再確認しました」



「吟剣詩舞の将来のあるべき姿、目指す方向」

【班別座談会討議テーマ】()内は発表者

各班の班長、副班長が前夜の座談会で交わされた意見をまとめて発表。役員がそれらの内容に対して答えました。1班の黒石龍光班長は「若い指導者の育成が大事。YouTubeなどを活用したい」。2班の石堂光聖子班長は「カラオケボックスにお願いして詩吟を置いてもらう、学校で詩吟教室を開かせてもらう」。3班の荒崎紫有副班長は「構成吟により歴史的な背景も説明する」などと発表。

4班の荒崎紫春副班長は対策を箇条書きにまとめ、①高齢者に続けてもらえるよう楽しく親睦を深める②少人数のところは合同練習会をする③夏祭りに参加するなど吟剣詩舞を知ってもらう④詩吟離れをなくすため今いる人を大切にする⑤SNSなどを活用して若い世代や外国人に周知する、などとしました。

それに対し池内専務理事は「かつて3百万人と言われた詩吟人口は10万人くらいに減少。余裕ができた年齢層にアピールしたい」、徳田副会長は「詩吟を知らない人が多いので、私のリサیتالは無料にし、両手に詩吟をしていない友達を連れてきてほしいと会員さんに頼んでいます」と意見を述べました。



沼崎富会長以下役員、講師、受講生がそろって記念写真。コロナ禍前の平成30年度の受講生は92人だったが、2年前の前回から施設の規模により半分以下で開催

令和6年度剣詩舞道大学 時間割

2月15日(土)

時間	項目／講師
12:00	JR三河安城駅 新幹線北口集合
12:35～12:45	注意事項伝達、事務局通達及び世話役紹介
12:50～13:10	〈開講式〉
13:10～13:30	一、剣詩舞指導者への期待／徳田寿風副会長
13:30～13:50	二、剣詩舞指導者への提言／早淵鯉将副会長
13:50～14:05	三、公益財団の組織運営と指導者の役割／池内賢二専務理事
14:10～15:40	四、早淵鯉将副会長
15:40～16:00	〈休憩【チェックイン】新しい審査方法について
16:00～17:30	五、こんなこと言っちゃなんだけど吟剣詩舞／青野紘三先生
17:30～18:15	〈夕食〉
18:20～19:40	六、剣詩舞の演技研究／藤上翔山理事他
19:50～21:00	七、班別座談会(剣詩舞の振興をめぐって)
21:10～22:00	〈点呼、とり舟体操の稽古、閉講式リハーサル〉
22:00	〈帰室・就寝〉

2月16日(日)

時間	項目／講師
6:00	〈起床〉
6:20～6:50	〈点呼、とり舟体操〉
7:00～8:00	自室に戻り着替え・荷物の移動
8:00～8:30	〈朝食【チェックアウト】
8:45～9:00	バスで碧南市東部市民プラザへ移動
9:00～11:40	八、剣詩舞実技指導／上岡暁壮・青柳弦太郎代議員
11:40～11:55	バスで勤労青少年スポーツセンターへ移動
12:00～12:30	〈昼食〉
12:35～12:45	〈記念撮影〉
12:55～13:55	九、意見交換会(班別座談会で出た意見の発表)
14:00～14:20	〈閉講式〉
14:20～14:25	事務局通達

新審査方法の解説と 武道館大会復活に向けて



日本モーターボート選手会の施設「勤労青少年水上スポーツセンター」の多目的室にて、開講式で挨拶する沼崎富会長。全国から37名の受講生が集まり、熱心に講義に聴き入るとともに実技研修も行った

昭和44年に創設された「夏季吟道大学」に続き、平成4年から開催されている「剣詩舞道大学」。「群舞コンクール」がない年に年おきに開催されてきましたが、コロナ禍での中止をはさみ昨年に4年ぶりに再開、今年も予定通りに開催されました。剣詩舞コンクルの審査方法変更の説明のため、参加者は審査員をされている方々が中心。結果的に宗家・会長クラスが多いレベルの高い大学となりました。

令和6年度 剣詩舞道大学開催

日本財団助成事業

日時：令和7年2月15日(土)～16日(日)
場所：愛知県碧南市：勤労青少年水上スポーツセンター
主催：公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会



開講式の最後に受講生誓いのことばを述べる白井翠画1班班長。受講生に選ばれた荣誉を胸に秘め、吟剣詩舞道の真髄を学ぶことを誓った

講師と講義の内容



〈一時限目〉 剣詩舞指導者への期待 徳田寿風副会長

吟道大学に初参加した時に「泉を掘った人を忘れるな」と説かれたが、自分が泉を掘る覚悟を持ってほしいと提案



〈一時限目〉 剣詩舞道指導者への提言 早淵鯉将副会長

「新しいものを取り入れるのは大切だが時代におもねってはダメ、伝統芸道を身につけたうえで真剣に遊ぶこと」と提言



〈三時限目〉 公益財団の組織運営と指導者の役割 池内賢二専務理事

公益財団とは何かから始まり、公益財団になった経緯と、公益財団として何をすべきかを具体例をまじえて解説



受講生全員に新採点表を配り、日本社心流の杉田月星さん(写真)が剣舞で『稻叢懐古』、名倉虹心さんが詩舞で『春月』を演舞、入倉昭星宗家も両方演舞して、それぞれ何点つけるかという模擬採点も行われた

モニターを使って剣詩舞コンクールの現行の採点表と改正案の採点表を比較する早淵鯉将副会長

2月15日(土) 審査方法の変更に 活発な質疑応答も

一昨年の前回に続いて、日本モーターボート選手会が運営・管理する愛知県碧南市の「勤労青少年水上スポーツセンター」で開催された「剣詩舞道大学」。15日12時50分から徳田寿風会長の「開講のことば」で始まった開講式は、国歌斉唱、財団会詩合吟と続いて、学長を務める日本吟剣詩舞振興会沼崎富会長が挨拶。

「笹川良二創始会長は、我々が愛好

する吟剣詩舞の普及振興を目指していくにはまず立派な指導者の育成が必要であり、第一線で日々指導に当たっている皆様方がさらなる学識を高め、自らの向上を図っていくことが先決であるというご提案により、昭和44年に夏季吟道大学が始まり、平成4年に船の科学館にて剣詩舞道大学が開講されました」とその成り立ちを説明しました。

1班白井翠画班長の「受講生誓いのことば」に続いて、一、三時限目まで例年行われている講義を実施(右の写真参照)。次の四時限目は今回

〈五時限目〉 こんなこと 言っちゃんだけど吟剣詩舞 青野紘三先生(サンシャイン社)

長らく吟剣詩舞の映像を撮影してきた立場から①ビデオカメラを通して気になること、②何をメインに撮るか、③伴奏曲の役割と選曲、④曲あてクイズ、⑤著作権制度について、などを解説。かつての武道館大会等の映像を通して、演目のイントロ早あてなども行い、受講生も興味津々で回答、「吟剣詩舞を楽しみましょう」というサブテーマに合った楽しい講義となりました。

吟剣詩舞に関するCD・DVDを制作・販売するさんしゃいんの青野紘三社長。令和元年度に吟剣詩舞大賞文化省を受賞



の重要なテーマである「新しい審査

方法について」。剣詩舞専門委員長でもある早淵鯉将副会長が、令和8年度を目処に審査方法を変更したいということで、現行の採点表と新しい採点表を配布して比較。実際に剣舞と詩舞の模擬演舞を全員で採点しました。

五時限目は永年にわたり吟詠・剣詩舞に関するCD・DVDを制作・販売してきたさんしゃいんの青野紘三社長を講師として、「こんなこと言っちゃんだけど吟剣詩舞」吟剣詩舞を楽しみましょう。青野社長が編集した映像などをもとに、曲あてをするなど受講生の関心を引き出しました。

夕食後も授業は続き、六時限目は6人の剣詩舞専門委員による「剣詩舞の演技研究」。それぞれの項目の曲にそって、いかに振付をするか解説しました(下の写真参照)。さらに七時限目は、前回コロナ禍のためにできなかった「班別座談会」。そして翌日の点呼、とり舟体操等の稽古後、22時すぎにようやく初日の授業が終了しました。

〈六時限目〉 剣詩舞の演技研究

剣詩舞専門委員を務める6人の講師が、どんなことに留意して振付しているか明かす実践的な講習。漢詩の日本詩と中国詩、和歌の3項目をそれぞれ剣舞と詩舞に分けて模範演舞をしたうえで、技術面や詩心表現などさまざまな角度から解説しました。

【和歌】「剣舞」振付説 早淵鯉将副会長

『和歌・さえのぼる』(織田信長)。まずストーリーを作って振付をし、信長の「自分はこの風に生きたくなかった」という思いを表現したかったがどうかはお客様次第と解説



【日本詩】「詩舞」振付説明 藤上翔山理事

『芳野懐古』(柳川星巖)。これまで振りが付いていなくて今回初めて挑戦したとのこと。転句の「満山白し」のところで二枚扇子でその情景を表すなど表現の仕方を解説



【日本詩】「剣舞」振付説明 入倉昭星理事

『八幡公』(頼山陽)。「高齢者用にあまり膝を曲げない振りも作った」とまず演舞。結局全員終了後、激しくジャンプする若者向けの振りも披露することになった(写真)



【中国詩】「詩舞」振付説明 杉浦英容理事

『絶句』(杜甫)。去りゆく春を惜しみ、望郷の思いを詠じた杜甫の詩を例に、詩文の意味と作者の思いを、いかに振りや扇子を用いて表現するかということを解説



【中国詩】 「剣舞」振付説明 多田正晃代議員

『涼州詞』(王之涣)。おもに刀に絞り込んで解説。中国詩ということで、遠心力を使って斬る青龍刀の表現や、杖(じょう)に見立てる方法などを細かく説明



机を下げて4班に分かれて車座になり、各班に講師が3人ずつオブザーバーとして参加、意見を出し合って討議した

〈七時限目〉 班別座談会 剣詩舞の振興をめぐって

今回はコロナの影響で実施しなかった班別座談会が復活。1班には早淵鯉将副会長、見城星舟代議員、石川春海世話役が参加するなど、4班に分かれて3人の先生方が参加して助言。少子高齢化や愛好者の減少などで低迷する剣詩舞界をどのようにしたら復興できるか、70分かけて話し合いました。その内容を班長・副班長が中心となってまとめ、翌日の午後、「意見交換会」として発表しました(6ページ参照)。

令和6年度剣詩舞道大学受講者一覧

1班 ◎=班長、○=副班長

No.	地区	氏名	指導歴	性別	流会派及び役職名
1	東北	福岡 康剣	8	女	神刀剣桜流剣詩舞剣桜館
2	東日本	齋木 彩染	35	女	彩佑流吟詠詩舞道 二代目宗家
3	中部	佐野 東心	12	女	日本壮心流 南心昭武館 館長
4	中部	北本 希月	3	女	渋川流剣詩舞道 雄聖会会長
5	中部	中嶋 宗山○	32	男	宗生流剣詩舞道総本部 宗範
6	近畿	美馬 義鷹	50	男	正義流剣舞術総本部最高師範
7	近畿	中町 佳洲	33	女	神伝真正一如流剣詩舞道 宗家
8	中国	白井 翠画◎	31	女	吟詠詩舞道玉翠流翠混会 会長
9	四国	中尾 明俊	6	男	陽明流瑞頭会 詩舞部副部長
10	九州	高根 麗峰	28	女	薩摩神刀自念流聖刀館 館長

2班

No.	地区	氏名	指導歴	性別	流会派及び役職名
11	東日本	星野 洲虹◎	35	女	紫虹流吟詠詩舞道会 会長
12	東日本	山下 神燈	40	女	神燈流総本部 二代宗家
13	中部	四ツ倉 蓮扇	9	女	(一社)哲泉流日本吟詠協会 愛北支部 剣詩舞支部長
14	中部	宇野 清陽	7	男	至心流至誠館 剣舞部長
15	中部	窪田 榮将	23	男	真舞流吟舞道会本部 宗家
16	近畿	坂上 鯉盛○	20	男	神伝真正早淵流剣詩舞道 大師範
17	中国	今脇 萌山	40	女	菊水流剣詩舞道 大範師
18	中国	河野 翠洋	20	女	吟詠詩舞道玉翠流呉連合会 会長
19	四国	田中 霊明	10	女	大日本水心流剣詩舞道虎嘯館 事務局長

3班

No.	地区	氏名	指導歴	性別	流会派及び役職名
20	東日本	志村 静紅	50	女	静風流勤久保会 宗家会長
21	東日本	北川 鍛星	20	男	神明鍛心流 宗家
22	中部	上岡 眺星◎	28	女	眺明流剣詩舞道治眺館 事務局長
23	中部	松浦 瑞雲	10	女	舞踊学院瑞聖流 瑞雲会会長
24	近畿	安倍 秀風○	20	男	神心流尚道館総本部 家元
25	近畿	青柳 芳紀	37	女	青柳流剣詩舞道 理事
26	中国	菅源 右光	30	男	菅源流剣詩舞道 宗家代範
27	四国	島田 霊尋	10	女	水心黎明流剣詩舞道黎明館詩舞会
28	四国	嶋岡 霊心	3	女	大日本水心流剣詩舞道虎嘯館

4班

No.	地区	氏名	指導歴	性別	流会派及び役職名
29	東日本	後藤 鏡戈○	5	女	瀨心流詩舞道会 宗嗣
30	東日本	五月女 凱昂	15	男	神刀無念凱山流 師範
31	中部	小池 輝星	15	女	日本壮心流 浜松昭武館 館長
32	中部	松澤 天楓	47	男	渋川流剣詩舞道 剣楓会会長
33	近畿	小嶋 一心◎	29	男	吟剣詩舞倭水心流 宗範
34	近畿	鉤 逢賀	16	女	正賀流吟舞社 師範
35	中国	大下 馨風	29	女	馨風流吟剣詩舞道 宗家
36	四国	林 柳冠	13	男	天心流南柳会総本部 会長
37	九州	大野 豊寿	46	女	大野流剣詩舞道 家元

笹川良一創始会長の時代から恒例の「とり舟体操」。朝6時20分から点呼の後、石川春海世話役の指導により班長が音頭をとって、役員・講師を含め全員で声を合わせて身体を動かした



早淵鯉将副会長

審査基準の変更は前向きに捉えていただけました

「剣詩舞コンクールの審査の基準が変わることを説明したかったので、現役の審査員、これから審査員になる方を集めていただきました。かなり質問もありましたが、結構前向きに捉えていただけてありがたかったです。結果的に宗家・会長クラスの参加者も多くてレベルの高い大学になりました。現在の大学は場所柄人数が限られ、もう少したくさん集まればとは感じますが、いろんな流派の方が集まって稽古するというのは意義あることなので、実技も充実させていきたいと思います」

誓いを新たに:班長の声

第1班班長:白井翠画さん



「前回参加した時は140人くらいいましたが、今回は第1班班長という大役で緊張しています。審査員として勉強するのが一番の目的ですが、さんしゃいん社青野社長の講義などは映像も非常に興味深く勉強になりました」

第1班班長:星野洲虹さん



「吟道大学に参加したのが10年前で雰囲気をおぼえていたのですが、会場に入った途端に背筋が伸びました。早淵先生に審査の方法を詳しく説明していただいたのと、講師の先生方の舞が素晴らしくて感激しました」

第1班班長:上岡眺星さん



「2年前に参加して今回は他の方が参加する予定でしたが、諸事情があって再度出席しました。前回はコロナ禍での開催で班別座談会はありませんでしたが、今回はいろんな先生のお話が聞けて有意義でした」

第1班班長:小嶋一心さん



「青年大学に来て以来2回目です。講師の方々がどんな気持ちで振りを付けているか自分の中で消化できて良かったです。帰ってから京都府総連の皆とディスカッションして今回の経験を分かち合いたいです」

『和歌・敷島の』を
剣舞と詩舞で実習

2日目は6時20分から点呼・とり舟体操。朝食後、バスに分乗して近くの「碧南市東部市民プラザ」へ。このアリーナで八時限目の「剣詩舞実技指導」。上岡眺壮・青柳弦太朗両代議員が、『和歌・敷島の』を剣舞班と詩舞班に分かれて指導します。

勤労青少年スポーツセンターに戻って昼食後、最後九時限目の「意見交換会」。昨夜の「判別座談会」の内容を各班長が発表するとともに、受講生の質問に役員や講師が答え、熱心な応答が続きました。

そして14時から閉講式。各班班長に沼崎学長から修了証書が授与され、受講生を代表して4班小嶋班長が感謝のことば。最後に大田直樹事務局長が「実技指導で行った『敷島の』を武道館大会で披露したいと思います」と発表、受講生の歓声とともに2日間にわたる剣詩舞道大学の幕が閉じました。



模範演舞をする上岡眺壮代議員(左)と青柳弦太朗代議員

上岡「青柳先生と相談してせっかくだから剣舞詩舞一緒に演題を選ぼう、和歌がいいのではとなり、『敷島の』を選びました。剣舞は私、詩舞は青柳先生が振付ましたが、一緒に舞えるようにしました。ご高齢の方も多かったですが、皆さん体の動きも良くて予想以上にまとまりました」

青柳「以前音源を作った時に振付はしなかったのですが、今回初めて振りを付けて上岡先生にお渡しし、上岡先生が合わせてくださいました。2時間ほどやるのはむしろいいかなと思ったのですが、皆さん集中力があってしっかり覚えて帰ろうという意識が強く、楽しく教えられました」



前半是和歌らしくゆったりと、テンポアップする後半では詩舞も扇子を刀に見立てた振付に

〈八時限目〉剣詩舞実技指導

上岡眺壮・青柳弦太朗代議員

1日目の夜に各班に分かれて「剣詩舞の振興をめぐる」について討議した内容をまとめ、各班班長が発表して役員と質疑応答を交わしました。

1班の白井班長は「子供時代に習っていても進学を機にやめてしまう子も多い。場所によって他流派に移って続けることが可能か」と質問。早淵副会長が「宗家同士が納得すれば可能」と回答しました。

2班の星野班長は「学校に頼んで琴やプラスバンドと共演している」というような実例をあげたうえで、来年度から部活動を民間で教えることがスタートするのではと質問、早淵副会長が「神戸市では登録がスタートしている」と紹介しました。

こうした発表の後、各受講者から寄せられていた「審査委員の人数が足りない場合は？」や「心に残る演舞は？」などの



流派により足の付け方なども異なるが、皆休憩時間にも自己練習をして見事に動きを習得した

〈九時限目〉意見交換会

1日目の夜に各班に分かれて「剣詩舞の振興をめぐる」について討議した内容をまとめ、各班班長が発表して役員と質疑応答を交わしました。

1班の白井班長は「子供時代に習っていても進学を機にやめてしまう子も多い。場所によって他流派に移って続けることが可能か」と質問。早淵副会長が「宗家同士が納得すれば可能」と回答しました。

2班の星野班長は「学校に頼んで琴やプラスバンドと共演している」というような実例をあげたうえで、来年度から部活動を民間で教えることがスタートするのではと質問、早淵副会長が「神戸市では登録がスタートしている」と紹介しました。

こうした発表の後、各受講者から寄せられていた「審査委員の人数が足りない場合は？」や「心に残る演舞は？」などの



会場の前には左から池内専務理事、早淵副会長、沼崎会長、徳田副会長が並び、横に座る剣詩舞専門委員会の各委員とともに受講生の質問に答えた

質問に対し、役員や剣詩舞専門委員が回答し、活発な意見交換がなされました。